

第7回我孫子市部活動地域移行検討委員会 議事録

1. 会議名称	第7回我孫子市部活動地域移行検討委員会
2. 開催日時	令和7年3月4日（火）17時00分～18時30分
3. 開催場所	我孫子市教育委員会大会議室
4. 出席者	【委員】 藤原委員長、鈴木副委員長、中村委員、近藤委員、岡島委員、藤間委員、川田委員、吉川委員、上坂委員 【事務局】 丸教育長 菊地生涯学習部長 山田教育総務部長 （文化・スポーツ課）辻課長、四家主任主事、五十嵐主任主事、松永主任主事、山本コーディネーター （指導課）森谷課長、塚田課長補佐、小山指導主事
5. 議題	（1）令和6年度実証事業報告について （2）令和7年度事業計画（案）について （3）その他
6. 公開・非公開	公開
7. 傍聴人	1人

内容：

○開会の言葉

○議題

○閉会の言葉

○議事録：

（事務局）

それでは、定刻となりましたので只今より第7回部活動地域移行検討委員会を始めたいと思います。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

本日の会議は委員10名のうち、出席者9名、欠席者1名であり、委員の過半数が出席のため、会議が成立することとなります。

本日は傍聴の方が1名いらっしゃいます。会議の最後に傍聴人の方の発言の機会を設けますので、傍聴人の方で発言したい方がいれば、1人1回3分以内で発言をお願いします。それでは会議の最初に資料の確認をさせていただきます。各席に配布しています資料をご確認ください。1枚目が次第になります。2枚目が委員名簿、3枚目に第7回我孫子市部活動地域移行検討委員会資料、続きまして資料2の令和6年度我孫子市部活動地域移行実証事業事業報告書、最後に資料3の令和7年度我孫子市部活動地域移行実証事業事業計画案となります。足りない資料があれば申し出願います。

それでは次に委員長挨拶となります。藤原委員長、一言ご挨拶をお願いいたします。

－藤原委員長挨拶－

（事務局）

ありがとうございました。それでは、要綱第6条により委員長が会議の議長となります。議事に入る前に皆様にお願ひがあります。会議の議事録を作成するため、発言をする際は前にあるマイクのボタンを押してランプが点灯したらお話しください。よろしくお願いいたします。

それではこれから議事に入ります。藤原委員長議事進行をお願いいたします。

（委員長）

それでは本日の議題は、その他を入れて3つございます。まず1つ目でございます。令和6年度実証事業報告についてご説明をお願いいたします。

（事務局）

はい。それでは説明をさせていただきます。まず初めに、我孫子市部活動地域移行

実証事業報告書ということで、資料 2 に基づいて説明をさせていただきます。

令和 6 年度の実証事業の報告になりますが、9 月 1 日から始めまして 2 月 28 日をもって実証事業の方を終了しました。活動自体は 3 月まで行いまして、4 月以降も継続となりますが、実証事業としては一度終了という形になります。

資料の 2 ページ目から説明になりますけれども、振り返りも含めてご説明させていただきます。まず今年度実証事業をやった学校としては、白山中学校のみとなります。白山中学校の陸上部と男女の卓球部で 9 月 1 日より検証を進めました。検証の内容としましては、記載のとおり①指導者、②連絡体制、③緊急体制、④移動方法、⑤施設管理、⑥管理業務というところで 6 個のテーマを設けて進めました。

3 ページ目が実際の実証事業の経過ということになりまして、活動開始前の 6 月の準備段階から 2 月の活動終了まで経過ということで載せさせていただいております。陸上と卓球それぞれの大会出場についても参考までに記載していますので、こういう活動があったというところでご確認いただければと思います。

続いて、4 ページ目から各クラブ活動の概要になりますが、まず①番の陸上クラブに関しては、指導体制が 2 名で最終的に進めていきました。内訳としては、元々部活動指導員に入られていた方 1 名、それからスポーツ協会からの推薦が 1 名で合計 2 名となっています。活動日は毎週土曜日の午前中、大会の参加に関しては 4 回になりました。この大会参加の回数ですが、大会の数ではなく 2 日間開催であれば 2 回とカウントをしています。続いて、卓球クラブになりますがこちら男女合わせての数になります。指導体制は 5 名ということで、1 名は男女兼任ということで指導をしています。元々部活動指導員をやられていた方が 2 名、スポーツ協会からの推薦が 2 名、最後に学校の顧問の先生が兼職兼業で 1 名になっております。活動に関しては、基本的には土曜日の午前と午後で男女にわかれて練習をしていました。大会の参加に関しては、男子が 19 回、女子が 18 回ということで、こちらは練習試合も含めた数になっています、大会の参加が多くなっている印象があります。

続いて 5 ページ目からが実際の指導実績と経費実績になります。陸上の方から活動日数としては 20 日、指導時間としては合計で約 190 時間になりました。右の 2 列が顧問の先生方の負担減ということで記載していますが、1 日の活動が準備と片付けを含めて、大体 4 時間でしたので活動日数をかけた 88 時間が削減できたというような形になっております。ただ学校の施設の関係ですとかそういうところで、実際に指導はし

なくても学校に来ていたというところもありますので、純粋な負担減ではありませんが、完全に実施されればこのくらいの活動時間が削減できるというような形になっております。男女の卓球に関しては、男子が 43 日間、女子が 38 日間ということで、それぞれ総指導時間、顧問の負担減ということで記載をしています。陸上に比べて、時間が長くなっているというところもありますが、そもそも指導者の数が多いこと、大会の参加がかなり多くなっているというところで、これだけの活動日数と活動時間になっております。

続いて経費の実績についてですが、まず陸上の方は謝金合計として大体 35 万円程度、消耗品で 6 万円程度、保険の費用が 1 万 5000 円程度で経費の合計としては 42 万 3128 円ということになりました。今回は、9 月から 2 月までの半年間になるんですけれども、これを参考として年間に換算したときに 83 万 1357 円となります。ただ、陸上に関してはシーズンオフということもあるので、多少変わってくるところはありますが目安として見ていただければなと思います。1 番右に記載してあります、千葉県の年間運営目安との差に関しては、県の方は 1 クラブ当たりの運営費用の目安というものを示しておりまして、それが 65 万円になっております。その目安の金額と比べたときに年間の換算を見ると 18 万円程度オーバーしているというようなことになっております。ただ県の目安の 65 万円の中には、事務局の運営費用なども含まれての金額になりますので、実際に年間を通してやっていくことを考えると少し金額的には乖離があるのかなと思っております。続いて卓球の男子に関して、消耗品と保険費用のところは陸上と変わりはありません。謝金のところに関しては、69 万 6000 円となっております、年間で換算すると大体 150 万円程度になるかなと思います。こちらも千葉県の方と比べると、87 万円のプラスになっております。卓球の女子に関して消耗品と保険費用に関しては、大きな差はありません。謝金のところが 91 万 7601 円とここが大きなところになっています。年間換算した金額と県の目安の金額を比べると 132 万 7739 円のプラスということになっています。かなり大きな数字になってしまっていますが、卓球の女子に関しては、指導者 4 人の体制となっており、金額の方も膨らんでいるところではあります。実際にこの体制で行ってみた成果と課題としては、右に記載しているとおり、指導者が充実したというところと教職員の負担が減少したというところは効果として挙げられています。それから、実際に必要となる経費が把握できたということで、謝金がどのくらいかかるのか、また消耗品等の活動費用がどのくらいかかるかというのも今回の実証を通して把握できたかなと考えております。これまでの内容から県の目安の金額とはかなり乖離があるというところで、ここに関して

は謝金の支払いや大会への参加を1日あたりの単価にするなど、そういう見直しが必要になってくるのではないかと考えております。

6ページ目と7ページ目に関しましては、実証を始める前のタイミングでこういう部分を検証しますということで説明した内容をそのまま記載しています。実際にその各項目に対してどういう成果があってどういう課題が見えてきたかというところが8ページ目になります。

まず①指導者の部分の検証に関しては、各クラブ2人～4人の指導体制になったというところで、技術指導の面で充実したというような意見が挙げられています。具体的に卓球の方では、学年ごとの指導ができるようになったというような意見がありました。練習試合の部分に関しては、顧問の先生の引率なしでも行けるようになったというところも成果として挙がっています。

一方で課題の部分ですけれども、大会出場するためには千葉県の登録費用などが必要になるというところで、競技活動によっても違ってくる部分はありますが、どのように負担していくかというところが1つ挙げられます。また大会が多くなってくると交通費支給も1つ課題になるかなと考えています。最後に関しては、今回指導者の方が加入されて地域クラブ活動として活動を始めたところではあるんですけれども、どうしても学校の管理を考えると教員の出勤というものが必要となる中で、管理方法に関しては、来年度以降も検討が必要になるかなと思います。

続いて②連絡体制に関しましては、今回アプリを導入してスケジュール管理と対象者間の連絡を行いました。地域クラブ指導者それから部活動の顧問と教育委員会の方が入ってやり取りをしましたが、一部使いづらい機能もありましたので、今たくさん連絡アプリができていていろんなものを比較検討した上で、最終的にどのようなものを使っていくかというのを決められればなと考えています。

続いて③緊急体制のところに関しては、今回大きな事故と怪我というものはありませんでした。そのため保険の対応ありませんでしたが、一部陸上の方で部活動として途中から転部してきたという生徒さんがいまして、地域クラブ活動として登録されていたわけではなかったのもので、その対応や登録体制等をしっかりと設けていく必要があるかなと考えております。

続いて④移動方法のところに関しては、今回学区外からの募集というものをしていませんでしたので、ここは来年度以降の検証となってきます。

続いて⑤施設管理のところですが、どのような導線を使って活動場所に移動するかということを確認することができました。その確認をした上で施設改修などを検討するということにしていたのですが、卓球は現在4階ランチルームを使用しており、トイレの男女の位置などを考えると施設の改修については、なかなか現実的ではないのかなと考えています。今後は、体育館を使用することも検討していますが、それはそれで卓球台をしまう場所がないとかそういった課題も出てきますので、どのような対応ができるか考えていく必要があると思います。陸上に関しては、校舎も使ってはいましたが外に倉庫を設けたりすることで、教員の出勤なしでも活動できるかなと考えております。

続いて⑥管理業務になります。こちら今年度は、教育委員会とコーディネーターが一緒になって担っていた部分ではありますが、コーディネーターに入っていて学校との調整などを連携して行いました。会員管理に関しては、連絡体制のところでも触れましたが、アプリを使用して行いました。ただアプリで個人情報とかの確認ができませんでしたので、保険の登録は別の登録方法を設けて行っているような状況でした。やはり生徒の皆さんと保護者の皆さんの利便を考えると、1つのシステムでできるようになった方がいいかなと考えています。続いて活動用品の調達ですが、どのくらい活動するかによって、どのくらいの消耗品等が必要になるかということで今回把握できましたので、これは来年度以降に費用等をもう一度精査した上で、競技によっても変わってくると思いますが、ある程度の目安は掴めたと考えております。指導者管理のところに関しては、ガイドラインに沿った活動をしていただきました。連絡等についてもアプリを活用して進めました。このアプリを利用して実績報告をしていただいて、それに基づいて謝金の支払いをするというような流れで行っていましたが、1つのシステムで完結するわけではないので、やはりこれもシステムの1つにまとめた上でやった方がいいのかなというところになります。また、意見として平日は部活動として活動していて、土日は地域クラブ活動として活動するということで、どうしても指導にギャップが生じてしまったということもあったと聞いております。今回は、元々部活動指導員としてやってくれている方が入っていたので、そこまで大きな問題にはならなかったんですけども、今後は新規で入る指導者が増えてきますので、一定期間は顧問の先生方と一緒に活動した上でクラブ活動を始めていく方がいいのかなと考えております。それから先程も説明させていただきましたが、なかなか今の謝金の条件では、今後受益者負担で進めていくときには、とても賄えないというのが見えてきました。ここは単価の見直しであったり、大会参加の

定額化等をしていかないといけないと考えています。指導者研修会は、毎年市の方で指導者養成講習会というものをやっていたんですけども、それを部活動の地域移行に合わせた形に徐々に変えていくということで、今回は独自科目としてアンガーマネジメントを開催しました。その内容に関しては、なかなか準備期間もなかったので、来年度以降に本格的に内容等を見直していきたいと考えています。実際に子どもへの接し方にちょっと不安があったような話もありましたので、指導者の方の意見とかも踏まえながら科目の設定は考えていきたいと思います。事故対応のところに関しては、先ほどの③の緊急体制と同じになります。

続いて9ページ目に関しましては、今回から陸上と卓球に新しく指導者に入っていたいただきましたが、その方たちと意見交換の場を設けて、その際に出た意見を参考までに記載させていただきました。こちらを確認をしていただければと思いますが先ほどの検証結果のところでも課題として載せさせていただいています。ここまでが地域クラブ活動報告になりまして、10ページ目以降が別の取り組みとして行ったブカツ未来アクションの報告になります。

11ページをご覧ください。ブカツ未来アクションについては、当初予定をしていませんでしたが、NECさんの方から協力してやってみたいとお話をいただいた中でプレイイベントとして10月から12月までで5回実施をしました。この5回の中で、まず1つはマルチスポーツというところが大きなところになるんですけども、実際に複数の種目を行って、総合的な能力を高めていこうという内容になっています。実際の種目としては、陸上、バレーボール、ラグビー、ソフトテニスを実施しました。実技に加えて座学もやりまして、内容がマルチスポーツに取り組む意義をはじめ、メンタル面の話やコンディショニング、栄養面の話を座学としてやりました。こちらに関しては、生徒だけではなくて保護者も参加していただきました。このブカツ未来アクションでは大きく3つの検証を行いまして、1つ目は指導者の部分、2つ目にデジタル活用、3つ目にマルチスポーツ活動になります。

指導者の部分に関しては、今後全部活動に広げていくときに指導者の確保が課題になるということが予想される中で、大学と連携して学生指導者の可能性を探れないかというところで指導者の検証を行いました。デジタル活用に関しては、NECさんが持っているようなものを活用して指導者の負担軽減ですとか質の向上を図れるかというものを検証しました。最後にマルチスポーツ活動に関しては、複数の種目をやることで総合的な能力向上を図れるということとそもそもニーズがあるのかというものを

確認しました。

実際の活動結果というものが13ページ目から15ページ目になります。多い時では、56名の参加があり、各回大体30名程度の参加がありました。NECさん以外にもヤマダホールディングスの陸上部の方やNECグリーンロケッツ東葛を始めとするアスリートなどの協力を得まして、実際に来ていただいて指導を行っていただきました。アスリートに教えていただけるような貴重な機会にしたいというところも特徴の1つでしたが、3回目4回目に関しては、大学連携の回ということで学生の指導者さんに参加をしていただきました。こちらは川村学園女子大学さんと中央学院大学さんに協力を得て5名の参加となりました。実際にNECさんのメソットベースというシステムを使っていただき、アスリートが事前に作成したメニューをシステム上で学習した上で、当日実践していくようなものになります。こちらに関しては、まだ2回ですのでしっかりと指導できていない部分もちろんあるとは思いますが、そういうシステムを使ったことで指導経験がなくても、ある程度数を重ねれば指導をできるかもしれないというような意見が学生さんから上がっています。15ページ目が実際に活動の様子の写真を載せております。

16ページ目が検証の結果ということで記載をしています。指導者の部分に関しましては、学生さんにも参加していただきまして、生徒と保護者からもアンケートを取り、概ね好意的な意見が多く上がっています。今後指導者を確保していく上で、市内に大学がありますので、連携しながら指導者の確保というものも図っていければと考えております。ただ、学生さんが参加するのは、基本的に在学中の方が多いかないという印象があります。保護者の方もやはり責任の所在に不安を覚えるような意見も一部上がっていましたので、なかなかメインで指導を行うというのは難しいかなと考えていますが補佐的な立場でやる指導者としては、十分活動してもらうことができるのかと思っています。②のデジタル活用のところに関しては、先ほど説明させていただいたとおり、デジタル分野を活用して指導者の経験とか質の向上に繋がるんじゃないかということが考えられます。ただし、アスリートが作成したメニューだからと言って、それが強制になるというのはよくないかなというところで、そこは注意しなければいけないかなと考えています。最後にマルチスポーツ活動の部分ですけれども、一定程度のニーズはあるのかなと考えております。アンケートでもなかなか他の種目を経験する機会というのではないというような意見が結構ありましたので、継続してやってみるのも良いのかなと考えております。それから座学も同時に行っていますが、こちらに関しては保護者からの反応がすごく良かったなと思います。なかなかお子さん

のために栄養面やメンタルのケアの話は興味があっても聞く機会がないというところが意見として上がっていきまして、今後も継続してやってもらいたいという意見もいただいております。そういう意味では1つの特徴として、続けていくのも良いのではないかなと思っております。ここまでがブカツ未来アクションの検証結果になります。

最後に17ページ目、18ページ目が令和6年度の取り組みを終えてのまとめになります。まず、実証事業を通して地域指導者の方に参加していただきましたが、資格を持っていたりの方が入ることによって、全体的な質の向上であったり、教職員の負担軽減に繋がるということが期待できる結果となりました。ただ競技や活動によっては施設使用にかなり課題があるというところで、今回は白山中学校だけで行っていますが、卓球に関しては全学校に共通する課題なのかなと考えています。また今回のブカツ未来アクションでは、中央学院大学さんの施設も使用させていただいたんですけれども、指導者の確保や施設の使用を考えると大学との連携というのもすごく重要になると思います。

指導者の質向上では、実際に地域クラブ指導者の方が参加したわけではなかったんですけれども研修行いまして、デジタル活用も含めて充実させていく必要があるかなと考えています。

最後に謝金や交通費、大会への参加というところは、今後受益者負担を考えた上でも見直しが必要になってくると考えています。

次に令和7年度以降に向けてということで、今回はチーム競技を移行したというわけではなかったもので、2つの学校を1つにまとめてということはありませんでした。そのため移動方法の検証はできませんでしたが、令和7年度にチーム競技が始まった際にそこも含めて検証したいなと考えています。

2つ目の指導者条件の精査は、こちらも行っていきたいと考えています。

管理運営の部分につきまして、令和6年度は教育委員会の方が担って行いましたが、令和8年度からは本格的に団体さんに任せていくというところで、こちらは来年度しっかりと体制の検討と構築を行っていきたいなと思います。

令和6年度の実証事業についての報告は以上になります。

(委員長)

はい。ありがとうございました。

ただいまご説明がありました、令和6年度の実証事業の報告について委員の皆様からご意見、ご質問等があれば頂戴したいと思います。いかがでございましょうか。

(川田委員)

まず5ページの経費のことですが、9月から白山中で実証事業をやることになってのご家庭の負担というものはどれくらいなのか。あともう1つは、8ページの緊急体制の会員登録方法の構築が必要というのは、それこそ白山中で始まったときに、白山中にいる子どもたちはどのようにして、そのクラブに登録したのか。

例えば何か用紙をいただいて、自分の名前と保護者の名前や印鑑を押して参加するというで提出をすれば、陸上部もしくは卓球部に所属することになるのか。その場合は、転部してきた生徒にも同じ手続きをすればいいと思うんですけども、その辺りの登録についてはどのように行ったのかなど今後地域移行が広がった時にどこに申請をしてどこに話をつければ良いのか教えていただきたいです。

(事務局)

はい。まず家庭の負担につきましては、今回9月から地域クラブ活動を始めた中で受益者負担を求めています。実際にかかった費用としては、謝金と消耗品、保険登録費用というところが主なところになりますが、市の負担で行いました。

2つ目の登録の部分ですが、最初に部活動を通して登録フォームの案内をお配りしたタイミングで全員登録していただきました。ただ途中で部活動として転部した生徒が来た時に部活動の方もそうですし、地域クラブの指導者とも話ができていなかったというような状況です。ある意味、部活動と地域クラブ活動の違いがはっきりしていなかったということもありましたので、そのまま何もせず部活動の延長として活動していたというのが実態です。そういう部活動の中で転部してきた生徒がいたときには、土日の活動についても途中からちゃんとした登録ができる体制と共有を令和7年度からはしていく必要があると考えています。

(委員長)

その他いかがでしょうか。

(吉川委員)

実証事業の指導者を含めた運営面の検証内容につきまして、丁寧にご説明いただき

ありがとうございました。

2月にクラブを参観できるということで、2月11日に参観させていただきました。陸上部、女子卓球部の午前中の活動は、生徒さんたちみんな主体的に参加し、目を輝かせている姿を実際に見て頑張っている姿を肌で感じたところです。特に陸上部では、メニューがきちんと決まっていて、それに沿って1人1人がトレーニングに打ち込んでましたし、また小学生も一緒だったということで、多世代交流という新しい形の活動形態の地域クラブというものが見られてよかったと思いました。女子卓球部については、卓球台それぞれに指導者の方がついて、1人1人にフォームですとかラケットの角度や足の位置などご指導されていて、それに応えようとしてる生徒たちの姿が印象に残りました。

今回の検証をまとめていただいた内容に生徒さんの実際の声がないので、もし時間がありましたら事前に何回かアンケートをとった中で出ていた、主体的に参加できたとか技術面、体力面の向上ができたのかなど実際はどうだったのかを是非アンケートを取って教えていただけると良いなと感じました。

(事務局)

2月いっぱいまで活動を行っていましたので、今後3月中にアンケートというものを実施して、始まる前に指導課経由で全生徒さんにアンケートを取った内容や項目と連携させながら、実際にどうだったかというのは、お子さんの意見として聞いてみたいなと思います。それから保護者も含めてどういう意見が出てくるかというのを聞いてみたいと思います。

(吉川委員)

よろしくお願いします。

(委員長)

その他いかがでしょう。

(上坂委員)

上坂です。詳細にご説明ありがとうございました。ブカツ未来アクションに1回見学に行かせていただいて、とても素晴らしいと思いましたので継続していただきたいと思っています。

ご質問なのですが、千葉県の年間運営目安が 65 万円と説明いただきましたが金額が低い気がしたんですけど、65 万円の何か内訳というのは明確にされているのでしょうか。例えば、指導者の謝金であったり消耗品など何かそういう組み立てというのはされているものなのでしょうか。

（事務局）

この 65 万円はある程度出されている部分ではあるんですけども、すごい細かく出ているわけではないです。例えば、指導者とかに関しては、恐らく 1 人の計算ではないかなと思います。1 人当たりで土日のどちらか 3 時間の活動で計算されていると思います。

事務局の運営費に関しても、定かではありませんが週 2 回程度で計算をされています。ですので、我孫子市の場合は準備と片付けも含めて、4 時間でやらせていただいているので、その辺の時間などの見直しも考えないといけないかなと思います。

（上坂委員）

ありがとうございます。

（委員長）

その他ございますでしょうか。

（中村委員）

管理運営体制について、恐らく 7 年度に向けて変わってくるかと思いますが実証事業を通して、教育委員会のスタッフの皆さんが、この事業でどのぐらいの規模の作業で、毎月、毎週何人で何日行っているのかなどの統計資料というのは蓄積されていますか。

（事務局）

管理のみに関しては、今この場ですぐ数字は出せませんが、ある程度把握はしていますので、まとめて報告できるようにいたします。

（中村委員）

ありがとうございます。実績が把握されていると今後の業務に役立つかと思いますのでよろしくお願いいたします。

(委員長)

他にご意見ございますか。

(岡島委員)

岡島でございます。先ほどブカツ未来アクションの検証結果というのをお聞きしまして、マルチスポーツ活動についてご説明をいただきましたが、個人的な意見といえますか感想になってしまいますが、やはり今の中学校1年生、2年生はこれから何をするか、自分に合う合わないみたいなことを発見するということからすれば、このようなマルチスポーツというものは、ぜひ今後も続けていっていただければというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員長)

その他よろしいでしょうか。

1点お願いがありまして、吉川委員が生徒さんそれから保護者の方のアンケートとおっしゃいましたが、できれば顧問の先生の声もお聞きしたいなと思います。

本当に負担軽減になっているのかというのをお聞きできればということで、それをぜひお願いできればと思います。

それでは、議事を進めさせていただきたいと思います。事業報告につきまして、またご意見等ありましたら、最後に時間を取りますのでその時にお願いいたします。

続きまして、2つ目の令和7年度事業計画案になります。それでは、よろしくお願いいたします。

(事務局)

はい。では、令和7年度の計画案ということで資料3になります。

2ページ目の地域クラブ活動についてということで、今年度実施した白山中の陸上部と卓球部に関しては、継続して地域クラブ活動として活動しますので、令和7年4月1日から令和8年2月28日までが実証期間となります。実際の活動自体は、3月末までとなります。対象としては、6年度は白山中のみでしたが、7年度は全中学校になりまして、基本的には1部活以上をやりたいと考えております。実証の内容に関して

は、規模の拡大ということを図っていきますので、今年度と同じかなと考えております。具体的な内容が3ページ目4ページ目になりますが、まず①の指導者の部分にしまして、今年度陸上と卓球で新たに5名の指導者にお願いしましたがけれども、この後に出てくる対象の部活動を考えると、今年度よりかなり大きな規模になるかなというところで、こちらに関しては、スポーツ協会それからスポーツ少年団等々と連携しながら指導者の確保というものを図っていきたいなと考えております。

また、ブカツ未来アクションで検証したところにもあるんですけども、さらに大学さんと連携をした上で学生指導者というものを検討していきたいなと思います。

②の連絡体制に関しては、アプリの部分になりますので、機能等を検証していきたいと思います。

③の緊急体制のところに関しましては、今回緊急対応マニュアルを作っていますが、こちらを更新することや先ほどの令和6年度の課題として出たチーム加入される生徒の登録というところまで、しっかり体制を作っていきたいなと思っております。

④移動方法については、今回から各中学校1部活以上ということで、基本的には競技単位、活動単位で移行を進めていきたいと考えております。そうなった場合、今6校にある部活動が地域クラブで3つになったりそういうところが出てきますので、その中で公共交通機関を使うことで参加できるのかというところを見ていきたいと思えます。

⑤の施設管理の部分に関しては、競技活動というものが増えていきますので、必要であれば施設改修を検討しないといけないというふうにも思いますので、動線などを競技別、活動別に見ていききたいなと思っております。

最後の⑥管理業務のところに関しては、令和8年度に全部活動の移行というものを目標にしている中で、令和8年度に向けた管理体制というものを構築、検討をしていきたいと思っております。基本的には管理運営の部分は、教育委員会で来年度は行う予定ですが、一部の活動を業務委託という形でNPO法人さんですとか民間企業の方にお願いできないかなというところも考えております。こちらは、最後の管理運営体制の部分で説明させていただきます。

続いて5ページ目になります。令和7年度の実証事業のスケジュール案になりますがけれども、進め方に関しては、6年度と大きく変わらないと考えております。ただ、今年度よりは余裕を持ちながら進められるかなというところで、既に来年度に向けて

動いている部分もあるんですけども、まずは1月中に新入生の保護者説明会というものが各学校で開かれました。その中で部活の地域移行の概要というものを直接説明させていただきました。あとは、地域移行する候補となっている活動の専門部長さんや顧問の先生、それからスポーツ協会と一緒に協会の場を設けていまして、どういう形で地域クラブ化をすればいいのかというものを競技ごとにそれぞれ話し合いながら、今進めているような状況になります。4月から6月に関しては、各地域クラブの設立準備ということで、指導者の調整などを行っていきます。先ほど少し触れました、一部クラブ活動の管理業務というものを委託できるのかというところで、その検討準備の方を進めていきたいと思います。7月から8月に関しましては、指導者の調整を並行して行っていくんですけども、それと同時に指導者研修会というものを行いたいと思っております。こちらの研修会は、今まで12月に行っていたんですけども活動が始まる前のタイミングや教員の方で兼職希望の方もいらっしゃると思いますので、より参加しやすい夏休みの8月というところで移させていただきました。9月から2月に関しては、実際に地域クラブ活動として活動の方を開始したいなと思います。

スケジュールについては以上になりまして、実際の各クラブ活動の計画というものが6ページ目から8ページ目になります。まず6ページ目のソフトボールなんですけれども、現在設置されているのが市内4校になりまして、久寺家、我孫子、湖北、湖北台中学校に設置があります。現在の検討状況としては、複数回各顧問の先生方それからソフトボール連盟、教育委員会が集まって協議の方をしているような状況です。その中では、この4校で設置されている活動というものを市内で1クラブにまとめて活動する方向で話が進んでおります。活動場所としては、久寺家中学校と湖北台中学校を拠点として行っていきたいなと思います。

続いて7ページ目になります。ソフトテニスに関しては、全学校に部活動があるという状況で白山中と布佐中は女子のみとなっています。こちらも現在の状況としては、ソフトボールと同じで複数回協議の場を設けた上で、どのように移行させていくかというところを協議しています。具体的には、男女別で全学校になるんですけども、市内に3から4クラブの設置ということが望ましいかなと思っております。対象としては、東地区として湖北、湖北台、布佐の3校を仮称ですけどもABIKO東地域ソフトテニスクラブということで1つにまとめます。西地区に関しては、久寺家と白山をまとめられるのかというのはあるんですけども、各学校の学区で1つのクラブにするか、まとめるかというところで今検討を進めておりまして、合わせて3から4

クラブを設置していきたいと思います。こちらのソフトテニスに関しては、いきなりクラブ化するのではなくて、まずは近隣校が集まった合同練習というような形から開始をして、徐々にクラブ化するのがあるのではないかとということで、顧問の先生と協会の方から話を聞いていますので、そういう形で進められればと思っております。ただ、ソフトテニスは全体的に人数が多いということがある中で、各学校の面数も限られていますので、理想としては1つの拠点に集まってやりたいという意見もありましたが、そうすると市民体育館ですとか民間テニスコートというような形になってくると思いますので、今民間の所有しているテニスコートに関しては、地域クラブ活動として使わせてもらえないかというところで同時に話をしているような状況です。

続いて8ページ目になります。サッカーと合唱については、これから三者で集まって話をするというような形になると思います。ただ、専門部長さんですとか一部の顧問の先生方それから協会との話を始めているような状況で、サッカーに関しては市内で5校設置されてますけれども、それを2から3クラブ程度にまとめて活動するのがいいのかなということで検討を進めております。来週に集まって協議をする予定です。

合唱に関しましては、白山と我孫子に設置されています。こちらの合唱は既にコンクール等に合同で出ているというような実績もありますので、基本的には1つのクラブとして活動していくということで考えております。活動場所として、校舎をずっと使っていくとなると学校の先生方の出勤が必要となってしまいますので、基本的には市内のピアノがある公共施設というものを考えている状況です。合唱の活動もこれから調整をしていきたいなというふうに思います。

続きまして9ページ目以降がマルチ活動の部分になります。こちらのマルチ活動に関しては、既存の部活動の移行とは別の活動になります。今年度にブカツ未来アクションで行ったマルチスポーツ活動の定例化というものになりますが、文化の単発の教室などもこの中で一緒にできればいいのかなと考えているので、マルチ活動ということになっています。定例化ということになりますので、月3回程度行うことができればいいかなと思っております。実技の部分に加えて、座学も行っていきたいと考えています。こちらに関しては、部活動の移行というわけではありませんので、参加料を取った上で進めたいと思っております。令和8年度以降の受益者負担というところを見据えた検証にもなるかなと思っております。

続いて11ページ目、12ページ目が管理運営体制の話になりますが、基本的には、

教育委員会とコーディネーターが連携をして管理運営をしていくような形になります。ただ、先ほどの検証のところでも説明させていただいたとおり、令和8年度に全部活動の移行というものを見据えると、いきなり全部を行うより一部の活動だけでも将来、想定されるような形でやりたいなということを考えておりまして、それが右の図になります。具体的にどの活動かというのは、これからの話になりますが、NPO法人ですとか民間企業さんに委託というような形でやればなというところで、来年度それができれば課題を出した上で、令和8年度の管理体制の構築というところに繋げていきたいなと考えています。

令和7年度の事業計画案についての説明は以上になります。

(委員長)

はい、ありがとうございます。

6年度に比べてかなり範囲が広がっております。事業計画案について、ご意見等ございましたらお願いいたします。

(川田委員)

基本的には、このソフトテニスみたいに各学校に共通の部活がある場合は、西地区、東地区、中央みたいな形になってくると思うんですけど、子どもたちの数も少ないので、その部活自体が合同でないと出れない場合もあると思うんですけども、それなりに人数がいてクラブチームで大会に参加したときは、勝つために出られない子どもたちがでてしまうということもあって、その辺はもう完全にクラブ任せになってしまうのかなと思って聞いてみました。

(事務局)

指導課の小山です。大会参加につきましては、令和5年から中体連の大会もクラブ参加が可能ということになりました。令和7年度、全国あるいは千葉県の方でもこのクラブ参加のあり方について、資料要綱にまとめ、各競技の対策を作っております。実際に我孫子市としてどうするかというお話なんですけども、今お話しいただいた通り、急にクラブ参加になると今まで毎回人数ギリギリで1チームでやっていたものが一緒に合同でとなると今まで大会に出られた子が出られなくなるということがもちろん想定されます。令和7年度については、基本的に中体連の大会についてクラブで参加をするのではなく学校での参加というふうに考えております。令和8年度9年度と

まだこの中体連の方のクラブの参加の規定が乗り越えなくてははいけないいくつかの課題がありまして、地域クラブというものを大きくひとまとめに民間クラブあるいは行政が認定したクラブ、行政が主導して作ったクラブの大きく3つがこれまでひとまとめにして考えているところがあるので、もう少しこの地域移行によって生まれたクラブや認定されているクラブについての扱いが他のクラブと変わっていくという時点で、地域クラブでの参加ができてくるのかなと思っています。目標としては、3年ぐらいかけて令和10年ぐらいには、地域クラブで参加という方針で、またそれを今のいわゆる小学生あるいはその保護者に対しても、数年かけてこうなっていくということです。来年は学校で出る、再来年は出られるクラブまたは出ても支障がないクラブは出るということで進めていきたいと思っています。

（川田委員）

ありがとうございます。もう1点、吹奏楽どうなってますでしょうか。吹奏楽の楽器はトラックなどでないと動かせないので、どうなんだろうというのは気になりました。

（事務局）

吹奏楽に関して、来年度は難しいかなと考えています。ただ、そういうクラブの問題や楽器関係のところはかなり課題になってくるというのはありますので、具体的に市内の吹奏楽部の顧問の先生にどういう形であれば地域クラブ化ができるかということを検討していただいているような状況です。そこは学校の顧問の先生と教育委員会それから音楽関係の方と話し合いながら時間をかけてできればと考えております。ですので、まだ具体的な内容に関してはこれからになります。

（委員長）

その他いかがでしょうか。

（藤間委員）

10ページのマルチ活動のところなのですが、ここだけ有料で行うことを検討ということですが、文化のところでは日本舞踊、短歌、俳句、謡曲、詩吟ここまでが文化連盟所属の団体で、太鼓、eスポーツのことはわかりませんが、文化連盟所属の団体に関しては、有料ではなくボランティアで良いから体験をしてほしい、体験をさせたいと

思っていますので、有料は嫌だなと思います。でも、物によって例えば謡曲であれば、その教本であったり短歌、俳句は色紙や短冊などいろいろそういうものだけは、実費でご負担願うことはあるかと思いますが、いわゆる月謝みたいなそういう有料的なものは、排除していただければいいかなと思っています。

（事務局）

ありがとうございます。このマルチ活動の部分に関しては、まず具体的にどういう形でやっていくかというところを進めさせていただきたいなと思っています。スポーツの部分に関しては、今のイメージだと例えば月に 1000 円をいただいて、週ごとに種目が変わっていきますので、全部参加してもいいですし、単発で参加してもいいよというようなイメージで考えております。それを文化の活動も同様にしていくかというところは、文化連盟さんなどと相談をしながら今後、作り上げていきたいと思いますので、協議の場を設けさせていただいて、ご相談をさせていただければと思います。

（委員長）

その他いかがですか。

（鈴木委員）

我孫子中学校の鈴木です。地域移行に関して、1つは子どもたちがいろんな種目を選択できるという良さ、もう1つの側面として、教員の負担軽減ということでやっていただけることに大変感謝しております。

昨年度のアンケートで地域移行をしたときに続けますという教員が3割ぐらいでした。その時点でも私は、正直少ないと思いましたが今年度の結果はまだ出てないんですけど、それ以下になってるような感じを聞いております。

この事業報告書の9ページの中で、大会は土日にあることが多く負担が少し大きいというのは、平日はみんな仕事をしているんですよね。移行をしていくと教員がやっていた部分を誰かが肩代わりしてもらってるような感じになると非常に心苦しい感じは受けております。もちろん誰がやっても大変だろうなというところで、来年度の実証事業計画案を見て、例えばサッカーをやるときに、今の顧問が中心となってやってくるのか、それともスポーツ少年団の近藤さんとかにお願いをして、推薦をしていただいて一緒にやっていくのかというのがあると思いますが、モチベーション上がるという

のは多分自分の子がいる間なんですよ。少年野球とかサッカーを見てても、自分の子どもがいれば、やってくれる方は多いと思います。でも引退したらやっぱり去っていく。それが中学校に上がって、中学校でもやってくればそれはコーチとしては1つ大きなモチベーションになるかなと思ひまして、保護者がやることによって別の課題が起きる場合もあるかもしれませんが、それが1つの指導者確保にはなるのかなと。指導者集めはこれからだと思いますが、来年度についてどんなふうに考えてるか教えてください。

(事務局)

サッカー一部の顧問の先生方とお話を1度させていただきまして、その中で先生方としては、いきなり全てを地域の指導者の方々にやっていただくというようには考えていないということでした。まずは、自分たちでどんな形でできるかというところを、少年団のコーチの方や今の部活動指導員の方と一緒にやっていき、そこから手を離していく、あるいは自分たちももっとやっていきたいと思えば、そのまま続けていくということを想定しています。特に千葉県のサッカーは、外部のクラブが非常に多いので、我孫子市の地域クラブで魅力あるものを作っていき、子どもたちが選択をしてくれるようなものを作っていきたいということを先生方はおっしゃっていました。また来週に先生方ともお話をしていくので、そこでまたご相談させていただこうと思っています。

(近藤委員)

ありがとうございます。今お話聞いてると少し安心をしました。この間、我孫子中の顧問の先生とお話をしまして、OBということもありいろいろ話をしていて、本人は部活をやりたくて学校の先生になったということを聞きました。

この前も、県のスポーツ少年団の会議で役員さんはほとんど学校の先生が多くて、その先生たちの意見を聞くと先生から部活は取れないよということで、やはり千葉県全域でもまだまだ部活をやりたい先生がいっぱいいるから、それをどうしようかっていうことで考えています。サッカーに関しては、手伝える人がいたら何でも言ってほしいということで、ボランティアでもいいから手伝いをできる人を紹介してる状態なんです。いろいろと学校によって事情が違ふと思うので、待ちながらサッカー協会として協力していきたいと思ひます。ただ、競技別にやはり資格が必要になってくると思ひますので、それもある程度決めておかないと、手伝いたいとなっても資格がない

と厳しいと思いますので、整理していただいて、我々は協力していきたいと思っています。

（鈴木委員）

学校の方でも、例えば自分の学校だからやる気が出るんだよねという先生もいます。そうではなくて、広く我孫子の子どもたちを育てる、またスポーツを普及させる、スポーツの良さを知ってもらうというような感覚や考え方になるように我々も啓発していかなければならないというふうに思っています。市民に呼びかけるときもかつて、部活動でいろんな先生に教わってお世話になったからぜひ恩返ししようよというスタンスであったり、例えば市役所の方もいろんなスポーツが得意な方や文化活動が得意な方もいるので、ぜひそういうところで経験を活かそうという感覚でやっていくことが指導者の確保としては、必要なのかなというふうに思っています。以上です。

（事務局）

ありがとうございます。今、鈴木委員からもあったとおり、地域指導者の確保ということにはなるんですけど、今後も続けていきたい学校の先生方もいらっしゃると思いますので、そこはまず初めに意向を聞いた上で進めていくことになるかなと思います。

資格の部分に関しても、どこまで求めるかというのはあるんですけど、こういう資格を持っている人に参加してもらいたいとか、資格は持ってないとしても市で今設けている研修に参加した方が指導者として活動できますとかそういう仕組み作りというのは、考えていく必要があるかなと考えています。

（山本コーディネーター）

コーディネーターの山本です。今回ですね、このようにいろいろな種目が来年度実証事業ということで行うにあたって、私も具体的にどんなふうに考えているかというと、顧問の先生方の考え方をよく聞く、またスポーツ団体の方や文化連盟の方たちの話も聞いて、いろいろな考え方がありますが、皆さんが共通理解のもとそういう方向に向かっていくといいよねというふうになると子どもは育ってくるのではないかなというふうなことを手応えとして感じています。今、私が懸念していることが1点あるんですけども、部活動は今まで先生たちが主導でやってきましたが、それが地域に行ったときに、先生方がその顧問にならないと学校と地域との繋がりがちょっと薄れてしまうのではないかなというふうに思うんです。これは結構危険なことで、学

校がどういうふうこれから伸びていくのかなという部分を考えると、やはり地域と繋がらなくてはいけないので、その1つのツールとして、大前提にこの地域移行が何かというふうには考えなくてはならないというふうに思っています。国が示してしまったので、仕方がないところなんですけども、そうしたら先生方も一緒にスポーツをしませんかとか、文化的な行事に参加しませんかみたいな感じになってくれるといいのかなというふうに思うので、ぜひ先生方にも一緒に活動していただくという我孫子市のスタイルになっていけばいいかなと思います。実際に陸上部で私やらせていただいていますけれども、下は小学校1年生から上はマスターズをやっている人がいますし、それだけの年齢層の方が参加するとどうなるかという、やはりいろいろ経験した方が中学生に対して指導してくれますし、教えるような形になってきてるので、私もスタートをするときにそういうことを理想として掲げていたんですけれども、段々とそうになってきてるかなと思って、みんなで参加するということが大切かなと思ってます。私からは以上です。

(委員長)

今、お話をそれぞれの委員とコーディネーターから伺って、各競技ごとに特性があるということで、それぞれの競技の顧問の先生と地域指導者が合意形成をしてから運営をしていくということが必要かなと思いました。これは1つ方針が決まったからといって、それが固定的なものではなく流動的なものであるということで、核になる先生が抜けたからできなくなるというようなことも考えられますので、毎年のように方針を確認しながらやっていくことが大事だなとお話を聞きながらそう思います。

その他に意見ございますか。

(中村委員)

管理運営の方針に関してですが、いろいろ内容を見ても来年度以降に解決しなければならない問題があるように思うんですけども、特にこの管理運営団体として、一部移管していきたいというような話がありましたが、この必要性ですねメリットまたそうしなければいけない必然性、この辺に関してはやはりしっかりと確認しておきたいなと思うんです。今は、教育委員会の方が大変精力的に動いてくれて、いろんな学校との話から1つ関係団体との話から走り回っていただいてここまできてある程度の形ができて、これは我孫子としてこうなっていくのかなという大事な時期だと思うんですね。更に強い形でこの活動を進めていくにあたって、やはり教育委員会のいわゆる

組織も含める人材、市で持ってる設備があって、それがうまく使えているかということで、すごく違ってくるのではないかなと思うんですが、そういう意味では、一部を将来に向けてある程度の道筋を作ることの意味とどのぐらいのスピードでやっていかなければいけないかという考えを伺いたいです。

（事務局）

想定している部分に関しては、調整については市の方が行った上で、例えば指導者の登録や謝金の支払い、活動備品の購入などそういうところが主な部分になってくるかなと思っています。ですので、令和８年度に管理していただく部分に関しても仕組みみたいなのを作った上で、実際の事務的なところの部分を担当してもらうというふうなことを想定しています。

スケジュールのところに関しては、９月からの活動ですのでそこから８月くらいに契約というような話をしまして、実際の業務が９月から開始というような形になります。これは令和８年度も一応同じ想定で４月からではなくて、９月からということです。

（中村委員）

あとは、具体的にそれを進めるとしたら、実際に我孫子市から委託できないかみたいな話があって検討しましょうという形でなるのか、その辺の道筋をお伺いしたかったです。

（事務局）

12 ページのところに記載のある市内 NPO などの NPO というのは、具体的な話で我孫子市スポーツ協会を想定しています。

それは、スポーツ協会がスポーツの普及でありますとかそれから競技団体の育成でありますとかあるいは競技を担う方々の資格ですとかそういったものを担ってる団体ですので、そこにお話を持っていくのが第１かと思います。

今後その期待される業務としては、減ってきたとはいえ仮に最終的に全部委託されるような形になったとして、子どもたちの数が 2000 人くらいいるわけで、そういったところのお金を集めたり、きちんとそれを管理するということも含めてお願いしたいと思っています。しかし事務的なところに関しては、マンパワーが足りないですとか、経理の専門家がないということになると、そういった業務を担っていただける

民間会社にその部分を一部管理業務委託として再委託するだとかやり方はおそらくあるかと思うので、そこは会計のルールに則った上での話になりますけども、NPO 法人我孫子市スポーツ協会が中心として業務を担っていただければというところは考えています。それは今まで説明しているとおり、スポーツ指導者それからスポーツを実際にやっている経験などを鑑みて、スポーツ協会が1番そこに近い場所にいるからというところですよ。ただ誤解をしていただきたくないのは、市や学校が担う部分をスポーツ協会に丸投げするのではなく、一緒になって進めていきたいと考えております。

(中村委員)

ありがとうございました。

(委員長)

これは、今後の話し合いですね。

(上坂委員)

上坂です。各クラブ活動計画案をご説明いただきましたが、野球部の状況をご説明いただけますでしょうか。

(事務局)

野球に関しては、今やっている部活動を市の教育委員会の主導で新しいクラブを作って移行するという方法もあるかなとは思いますが、実際には地域移行を見越した上で活動されている新しいチームがあります。チームとは、定期的に話し合いを重ねている状況ではあるんですが、実際クラブの会員としては、受益者負担でそのクラブ自体を回しているような状況で、あとは学校に部活動がない生徒も既に受け入れるような状況があります。もちろんその中には、部活動に参加されている生徒もいるので、活動自体は土曜日と日曜日どちらも行っているような状況で、そこに関してはガイドラインとかの兼ね合いもありますので、野球も全学校同時にやっていくということになるかなと思います。現状は、検討中になります。

(委員長)

その他いかがでしょうか。

2点ほど確認をさせてください。1つは5ページのスケジュールなのですが、9月から各クラブ活動開始というのは、6ページ以降の各クラブ活動の計画案に記載のある

ものでよろしいでしょうか。

（事務局）

はい。そのとおりです。

（委員長）

今年度に実証をしたクラブについては、4月からということですね。

もう1点が12ページの管理運営体制案のところにコーディネーターの記載がありますが、これは教育委員会の中に、位置していると思うのですが外に出した方がいいのではないかと思います。また、矢印は双方向になると思うので、その辺もぜひご検討いただければと思います。

（事務局）

ご指摘ありましたとおり、教育委員会の中に含むという想定でこのような記載になっているんですけれども、別出しで資料を修正させていただきます。

（委員長）

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、議事を進めさせていただきます。3のその他について、ご説明お願いいたします。

（事務局）

最後の議題になりますが、A4の資料の右上に資料1と書いてある資料のその他になります。

まず（1）として、この我孫子市部活動地域移行検討委員会ですが昨年度と今年度、皆さんにご意見をいただきながら進めてきました。当初は今年度で1度終わりというような形でした。ただ来年度も実証として進めていきますので、同じ形でご意見をいただきながら進めたいと考えております。また新たに委嘱という形になりますので、こちらに関してはご案内をさせていただきます。令和8年度以降なんですけれども、完全に部活動が地域移行された段階で、地域クラブ活動自体を管理ですとか評価するような組織というものが必要になってくると考えております。こちらに関しては、来年度新たに組織体制というものを検討した上で、適切に進めているかを見ていくよう

な組織を立ち上げるべきだと考えております。

(2) の令和 7 年度検討委員会について、(1) で説明させていただいたとおり、任期終了ということで、こちらはまた後日連絡をさせていただきます。その上でスケジュールは、まだ確定はしていないんですけれども、年 4 回を予定しておりまして大体の日程というところで、記載されているスケジュール感で進めていきたいと考えております。こちらもあり次第ご報告の方させていただきます。

その他については以上になります。

(委員長)

ありがとうございます。只今の連絡について、ご質問等ございますでしょうか。

(川田委員)

私、我孫子市 PTA 連絡協議会の中学校の会長として、この 2 年間お世話になりました。ありがとうございました。会長職をまだ受けられれば、勉強になる部分が多くあるので続けたかったと思う部分はあるんですけれども、娘が卒業をしますので、来年度からは私ではない違う方がやるかと思います。

そうなってくると、PTA 会長は 4 月半ばから 5 月初旬の登録になると思いますので、5 月の初めに決定されてしまうと、ここに PTA の役員がいらないような形になってしまいますので、その辺の調整をお願いしたいと思います。

(委員長)

その他ございますか。全体を通して何かございますか。

最後に傍聴人の方がいらっしゃいますので、何かございましたらご発言をお願いいたします。

本日の議題は以上になります。最後に事務局よりお願いいたします。

(事務局)

はい。先ほどもありましたとおり、来年度の検討委員会の日程につきましては、また後日お知らせする形になるかと思います。また併せて、委員の委嘱も含めてご連絡させていただきます。

お忙しい中恐れ入りますが、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

以上です。

(委員長)

はい。ありがとうございます。それでは、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。

また次回に引き続きよろしくお願いします。